



「赤穂事件」のあらまし



〔仮名手本忠臣蔵十一段目〕落合芳幾
(山口県立萩美術館・浦上記念館所蔵)

1701(元禄14)年3月14日、江戸城内松の廊下で、赤穂藩主・浅野内匠頭長矩が吉良上野介義央に突然斬りかかったことに始まる。事件は、時の將軍徳川綱吉が勅使(天皇の使者)に対面する非常に切腹を命じた。浅野は事件後預けられていた田村右京大夫建頼の屋敷の庭先で切腹。35歳という若さだった。

当時は喧嘩両成敗が武士社会の決まりだったが、浅野家は取りつぶし、一方の吉良はおとがめなしという結果になった。これは事件当時、斬りつけられた吉良が刀を抜かずに逃げたことから、喧嘩と見なされなかったためでもある。

この殺きを不服とした浅野家の家臣たちは、吉良に対する仇討ちを計画。浅野が切腹した翌年1702年12月14日深夜、浅野家筆頭家老・大石内蔵助良雄をはじめ47人が吉良邸に討ち入り、主君の無念を晴らす。その後47人は細川家、松平家、毛利家、水野家にお預けとなり、翌1703年2月4日預けられていた屋敷で切腹となった。

真の国際化とは自分の国を知ること。今から300年前、忠義を貫いて散っていった者たちがいた。彼らの物語は、忠臣蔵として今なお語り継がれている。その題材となった「赤穂事件」の核心に迫る。

text by 渡辺幸裕・photographs by 稲垣純也

播州赤穂浪士
大石内蔵助良雄

主な人物

吉良上野介義央
きらこうずけのすけよしひさ

高家(幕府の儀式や朝廷への使いを担当する家柄)筆頭。4200石の旗本。討ち入り当時62歳。浅野に斬られた額の傷は14cmほど。悪人に描かれることが多いが領民には慕われていた。

大石内蔵助良雄
おおいしくらのすけよしとか

浅野家筆頭家老。家老だった頃のあだ名は「昼行灯」。主君の浅野内匠頭を失って後、浅野家再興のために奔走する。再興がかなわず仇討ちを決意してからは、リーダーとしての手腕を発揮。

浅野内匠頭長矩
あさのたくみのかみながのり

赤穂藩主(5万石の大名)。当時、勅使饗応役(天皇の使者の接待役)を任されていた。吉良を斬りつけた理由は定かではなく、「恥をかかされた」「塩田を巡る争い」「乱心」などの説がある。

大石主税良金
おおいしからよしかね

大石内蔵助の息子。討ち入り当時はまだ15歳だった(四十七歳年少)。討ち入りでは吉良邸の裏門グループのリーダーを務める。男性の平均身長が155cmの当時、172cmもあったという。

徳川綱吉
とくがわつなよし

「生類憐れみの令」で悪名高い江戸幕府5代目將軍。赤穂藩士たちの討ち入り後、彼らの忠義心を重んじ、罪人ではなく武士としての死「切腹」を言い渡す。

阿九里(瑤泉院)
あくり(ようせんいん)

浅野の妻。内匠頭切腹後、剃髪し、瑤泉院と名乗る。討ち入り後は義士の縁者たちの助命と赦免に奔走した。41歳で逝去。

堀部安兵衛武庸
ほりべやすべえたけつね

養父・堀部弥兵衛とともに討ち入りに参加。当時33歳。四十七士の中で唯一人を斬った経験の持ち主だった。

片岡源五右衛門高房
かたおかげんごえもんたかふさ

刃傷事件当日、小姓頭として浅野の供を務めていた。切腹前の浅野に挨拶をした唯一の人物と言われている。

年末には必ずと言っていいほど耳にする言葉「忠臣蔵」。東京・準町にある国立劇場でも現在、歌舞伎「元禄忠臣蔵」が3カ月連続で上演され、大入りとなっている。題材となった元禄赤穂事件から既に300年経つが、いまだに日本人の心を捉えて離さない。その魅力は一体どこにあるのだろうか。

国立劇場・文芸課主任の岡野豪さんは「強制されない連帯感の美しさと忠義心が人を引きつけるのでしよう」と語る。

大石内蔵助を中心に義士たちが討ち入りを果たすまで、刃傷事件から2年の歳月が流れた。その間に多くの家臣が様々な理由から挫折し、また、同盟を抜けた。それでもなお、47人も家臣たちが、自分の意志で主君への忠義を貫いたのである。

結束を維持できたのは大石のリーダーとしての手腕に負うところが大きい。彼は再三にわたって、結果を追い求めるのではなく、過程を大事にするように説いたという。そして最悪の事態(吉良上野介を討ち損ねた場合)も想定し、たとえ失敗しても主君の墓前で腹を切ることで自分たちの忠義は証明できると話した。最大の目的は吉良を討つことではなく、忠義を示すことだとし、義士たちの結束を固めたのである。

彼らの行いは復讐ではあるが、そこに陰湿さはない。それは深い恨みや捨て鉢な気持ちから出た行動ではなく、その志が、純粹な忠義心であり潔いものだったからだ。

世間の人々の強い関心を集めた赤穂事件は、義士たちの切腹直後に劇化されたが、幕府を刺激することになりわずか3日で上演禁止となる。その3年後、近松門左衛門が書いた「基盤太平記」が上演される。そして刃傷事件から47年後、集大成とも言える作品「仮名手本忠臣蔵」が成立。討ち入りに参加した47人と、仮名手本つまりいろは47文字をかけた演題である。幕府の検閲を避けるため時代設定を変え、役名も大石内蔵助を大星由良之助にしているが、彼のリーダーとしての秀でた能力は見事に描かれている。

彼らが貫いた忠義と結束力の素晴らしさは、300年経った今でも色あせることなく、人々を魅了するのだろうか。

場合も想定し、たとえ失敗しても主君の墓前で腹を切ることで自分たちの忠義は証明できると話した。最大の目的は吉良を討つことではなく、忠義を示すことだとし、義士たちの結束を固めたのである。

彼らの行いは復讐ではあるが、そこに陰湿さはない。それは深い恨みや捨て鉢な気持ちから出た行動ではなく、その志が、純粹な忠義心であり潔いものだったからだ。

世間の人々の強い関心を集めた赤穂事件は、義士たちの切腹直後に劇化されたが、幕府を刺激することになりわずか3日で上演禁止となる。その3年後、近松門左衛門が書いた「基盤太平記」が上演される。そして刃傷事件から47年後、集大成とも言える作品「仮名手本忠臣蔵」が成立。討ち入りに参加した47人と、仮名手本つまりいろは47文字をかけた演題である。幕府の検閲を避けるため時代設定を変え、役名も大石内蔵助を大星由良之助にしているが、彼のリーダーとしての秀でた能力は見事に描かれている。

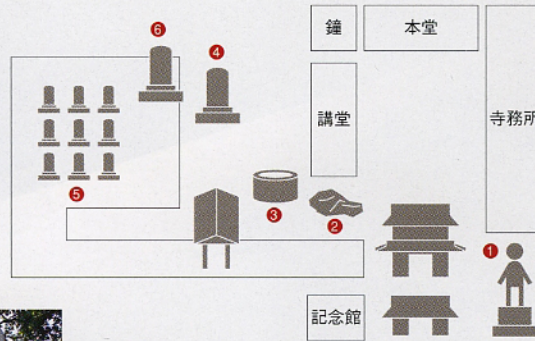
彼らが貫いた忠義と結束力の素晴らしさは、300年経った今でも色あせることなく、人々を魅了するのだろうか。

忠臣蔵ゆかりの地 泉岳寺を歩く

大石内蔵助をはじめ、赤穂浪士たちが眠る泉岳寺。ここでは赤穂事件に関わりのあるものを間近に見ることができる。



⑥ 大石内蔵助の墓



泉岳寺
東京都港区高輪2-11-1



⑤ 四十七士の墓

討ち入りに参加した47人と、萱野三平の墓。毎日400～500人が参拝に訪れる。



④ 浅野内匠頭の墓



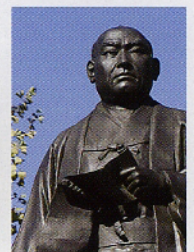
③ 首洗い井戸

義士たちが吉良上野介の首を洗ったとされている井戸。



② 血染めの石

浅野内匠頭が切腹した田村邸の庭にあった石。浅野の血潮がかかったと言われている。



① 大石内蔵助の銅像

山門の横に立ち、その手に連判状を持っている。

そのほかの史跡



吉良邸跡
東京都墨田区両国3-13-9

吉良邸の一角は現在本所松坂町公園として保存されている。園内には吉良邸内にあったという井戸や稲荷神社、討ち死にした吉良家家臣の供養碑がある。



浅野内匠頭終焉の地
東京都港区新橋4-31 付近

石碑は実際の切腹場所から少し西に建てられており、なぜか車道の方を向いている。田村邸の表門があった赤レンガ通り沿いにある和菓子屋で、忠臣蔵を題材にした「切腹最中」が売られている。1個178円。



大石内蔵助切腹の地
東京都港区高輪1-16-25

細川家に預けられていた、大石内蔵助を含む17人が切腹した場所。旧細川邸の庭園として保存されている。



Yukihiro Watanabe

ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。前職のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独立を機に日本文化超初心者会「和・倶楽部」を提唱、運営中。会のコンセプトは「日本人に生まれたことを喜びたい」。

写真：新聞雑誌



お話を聞いた人

岡野 豪さん
日本芸術文化振興会
国立劇場 芸能部
文芸課 主任

さらに詳しく知りたい人は

- DVD
「群像」NHKエンタープライズ
「忠臣蔵 花の巻・雪の巻」東宝
- 書籍
「赤穂浪士」大佛次郎／集英社文庫
「元禄忠臣蔵」真山青果／岩波書店

■お知らせ■

「日本かぶれ」では読者の皆様にご参加いただける様々なイベントを計画しております。伝統文化を体験するセミナーや伝統芸能を鑑賞する催しなど、日本をよりよく知るための機会としてご活用ください。詳細は当コラムと日経ビジネスアソシエオンライン (<http://nba.nikkeibp.co.jp/>) を通じて順次お知らせいたします。ご期待ください。